

週1回の応援医師外来及び常勤医週2回の外来体制も4年目を迎えた。外来患者数は年間1,626名であり、前年度の1,610名と大きな変化はなかった。年間の外来患者数の推移を図に示す。

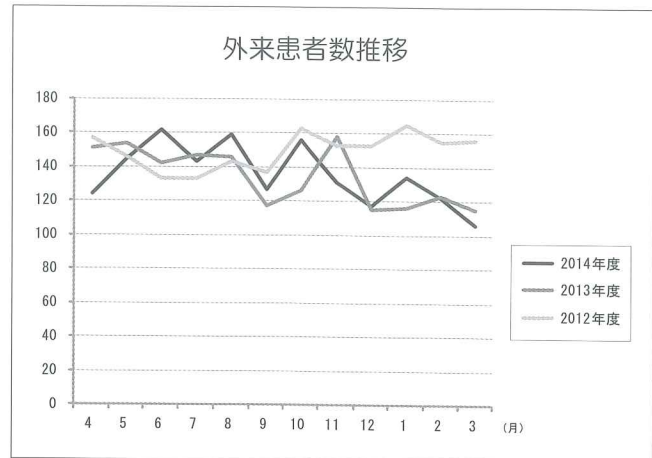
外来患者の内訳として前年度は気管支喘息58名(10.4%)が最も多かったが、2014年度は胸部異常陰影(健診または開業医からの精査依頼)が一番多く54名(8.8%)であった。そして、肺癌52名(8.5%)、気管支喘息51名(8.3%)となった。詳しい内訳を図に示すが、前年度と著変はない。

入院患者数に関しては、2012年度171名、2013年度174名、2014年174名と大きな変化はなく推移している。新入院患者の疾患内訳を図に示すが、肺炎・肺化膿症が56名(32.2%)と一番多く、前年と変わらなかった。肺癌31名(17.8%)、脳血管疾患15名(8.6%)、心不全・肺高血圧症10名(5.4%)、間質性肺炎急性増悪8名(4.6%)と続いた。詳しい内訳を図に示す。

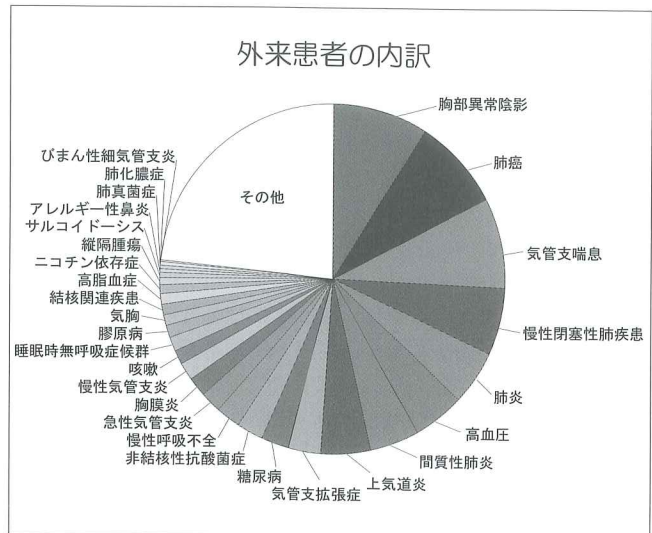
気管支鏡検査は2013年度9例と減少していたが、2014年度は12例と若干の増加を認めた。気管支鏡検査の対象疾患は、いずれも肺癌であった。

学会活動としては、1年に1回の学会での発表を行っている。2013年、2014年は感染症学会西日本地方会での発表を行っており、2015年も同学会での発表を行う予定である。

外来患者数推移



外来患者の内訳



外来患者の内訳

